

田中和鶴海機械クラブ元会長からの贈りもの

坂口忠司

私が、大学に助手として着任した昭和 37 年（1962 年）頃、神戸大学機械クラブは、神戸高等工業学校と工業専門学校の卒業生の方々によって運営されてきました。私は、先輩のご指導の下、機械クラブの諸々の仕事、雑用をしてきました。

大学を卒業した先輩諸氏もそれなりの年齢に達し、私自身も歳をとってきました。ここらで大学の卒業生として、何か同窓生、同窓会のために、それなりの活動はできないかと考えるようになり、機械クラブの中に、「三月会」を発足させていただきました。「皆さん！ 三か月に 1 回は集まりましょうよ。そして友人を増やし、親睦を深めましょう」、という思いに基づく名称です。「三月会」が企画し、実施したのは、「先輩は語る」、「若手研究者は今」などの講演会と工場見学会でした。講演を拝聴し、あるいは工場見学をさせていただいた後に、懇親会を持ち、同窓生の親睦を深めました。

発足後しばらくしたある時、神戸大学工学振興会の理事長も務められた機械クラブ会長の田中和鶴海先輩から、「三月会」の運営資金はどうなっているのかと聞かれました。特に財源はありません、その場その場で会費を集めて運営していますと答えましたところ、それでは大変だろうと仰って、100 万円をポンと寄附してくださいました。大変びっくりしました。感激いたしました。お蔭様で何不自由なくスムーズに諸会合を開催し、運営することができました。想像もしていなかったご厚意に、心から感謝いたしました。

前世紀も終わり近くになったころ、他学科の同窓生の先生方から、「機械クラブは、いったい何時まで先輩に甘えているのだ、いい加減に、新製の卒業生が機械クラブの運営の役を引き継がないといけないじゃないか。」と強く注意されました。その強い忠告に沿い、新体制への移行が行われ、機械工学科 2 回生の井上理文氏が会長として就任されました。本当に、随分長い間、先輩のご厚意に甘えてきたものと思います。長い間、ありがとうございました。

この新体制に移行した時以降も、三月会の諸活動は、皆様のご理解とご尽力によって、それまでと同じように機械クラブの活動として継続して実施され、現在に至っています。会計も合体いたしました。この移行までの間、後に会長に就任されました 9 回生の永島忠男氏が 100 万円のお守り役としての会計を務めてくださいました。

ところで、思い起こせば、このような大きなご厚意を戴いた田中元会長からは、機械系教室並びに学生に対しても、暖かいご理解とご厚意をいただきました。

まず初めは、学生に対する表彰です。

機械工学にとって最重要学会である日本機械学会は、各大学の機械系の卒業予定の学生を対象に、学会賞の一つとして畠山賞を設けていました。卒業が近づくと、教室会議で、卒業予定者の中から、学力優秀の学生一人を、厳正な審査に基づいて選考し、学会に推薦いたします。主として、習得単位数とその成績を基準にして選考がなされました。

この畠山賞の選考基準としては、学業成績が主とし用いられています。学生の評価には、成績に加えて、それ以外にも評価項目がある得るのではないかと考えもあります。成績は今少しだが、部活動やサークル活動、社会活動などの諸々の事項に目を向けると、それなりの活動をし、それなりの成果を挙げている人も居るのではないかという視点です。そのような学生を対象として、何らかの表彰をお考えいただけませんか、機械クラブの会長だった田中和鶴海先輩にお尋ねしたところ、良い視点だ、賛成だという事で、優秀な学生を対象とした機械クラブ会長賞を創めてくださいました。

ところで、このような優秀な学生が居るということは、本人の努力と研鑽によるところが大きでしょうが、彼らを育ててくださった素晴らしい先生がいらっしゃるということも大きな要因と考えられます。受験生から、あるいは在学生から、あの先生のもとで研究をしたいと思われるような魅力的で秀でた先生の存在は、大学において大変重要なことです。あの先生のもとで勉強をし、研究をすれば、自分もそれなりの人間になれるだろうと思われるような先生の存在は大切に、貴重です。しかし、先生を評価するという事は大変難しいことです。比較的無難な基準として、学会等における例えば論文賞のような栄誉を受賞されたことを、機械クラブとしてお祝いさせていただくということが考えられます。本件に関しても、田中和鶴海先輩にお尋ねしたところ、賛成だという事で、機械クラブ賞を創めてくださいました。

このように田中先輩からは多くのご理解とご支援を戴きました。とりわけ個人的にご支援いただきました三月会への100万円という温かいご配慮の重みは、常に私の心の中にずっしりと忘れ難く残っていました。

幸いにも、それにあやかる機会が訪れました。それは、退官直前の平成11年(1999年)でした。皆様が開催してくださいました私の退官記念祝賀会において、学生諸子の海外における活動を支援するという用途指定の基金として、機械クラブに同額を寄付させていただくことができました。

当時は、世界的規模で、国際化が広がり、諸外国の人々との交流が不可欠と、

強く認識されつつありました。しかし、日本では、逆に消極的に青春を送ろうとしている若者が多数を占め始めていました。友達同士で話し合っ、在学中に海外旅行などを企画し実行することも少ないようでした。このように視野が狭くなり、内にこもりがちの日本人の学生を励ますために、この基金を用いて、海外で開催される国際会議において研究発表をする後輩を支援してくださいと、機械クラブにお願いしました。機械クラブは、この面倒な役割を引き受けてくださいました。そのお蔭で、20人の学生を支援することが出来ました。

神戸大学機械クラブはもとより、
同窓会は、
先輩の存在によって、初めて始まります。
後輩が居て、継続いたします。
素晴らしい先輩は、後輩の目標です。
立派な後輩の輩出は、先輩の誇りです。

後輩が立派に育ってほしいという先輩の熱い思いは、機械クラブ賞、機械クラブ会長賞、機械クラブ国際活動奨励賞を含む機械クラブの諸支援事業として継続され、今後とも拡充され、継承されて行くことと思います。

そこには、田中和鶴海先輩をはじめとする卒業生全員の後輩への強い、熱い思いが込められています。

令和4年(2022年)10月5日

追記：

この文書を機械クラブのホームページに投稿するに際し、数名の方に内容のご検討を依頼いたしました。お陰様で、貴重なご助言を戴きました。ありがたいことと感謝いたしております。その際、機械クラブのホームページが会員各位の交流の場として、より頻繁に種々の情報が交換されることを願って、拙文の読後感ないし、関連事項に対するお考えなどをご投稿していただければとお伝えいたしました。この短文を読まれた会員各位におかれましても、在学中並びに現在に至るまでの思い出を機械クラブのホームページにご投稿いただき、人生100年を有効に、楽しくお送りいただければと思います。

令和4年(2022年)10月14日